

野菜花き 10 月上旬巡回調査結果の概要

【東北信】 巡回日 10 月 6 日、7 日、8 日

1 トマト

小諸市の巡回ほ場（露地栽培）は、作付が終了していた。

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、すすかび病の発生が多く、調査株の全株に発生がみられた。虫害では、オンシツコナジラミの寄生がみられ、寄生株率は平年と比べやや高かった。

2 きゅうり

長野市の巡回ほ場（施設栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病の発生が多く、調査株の全株に発生がみられた。また、べと病の発生も多く、発病株率は平年と比べ高かった。褐斑病の発生もみられたが、わずかであった。虫害では、オンシツコナジラミの寄生がみられ、寄生株率は平年と比べ高かった。



図1 キュウリ褐斑病（中野市）

中野市の巡回ほ場（露地栽培）は、収穫中であった。病害では、うどんこ病の発生が多く、調査株の全株に発生がみられた。また、褐斑病、べと病の発病株率も高かった（図1）。虫害では、ハダニ類の寄生がみられ、寄生株率がやや高かった。また、アザミウマ類、オンシツコナジラミの寄生もみられたが、わずかであった。

3 いちご

南牧村の巡回ほ場は、着果期であった。アザミウマ類の寄生がみられ、寄生花率は平年と比べ高かった。病害の発生はみられなかった。

4 キャベツ

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は低かった。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。ウワバ類等チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は低かった。病害の発生はみられなかった。

軽井沢町の巡回ほ場は、収穫期であった。チョウ目害虫の被害がみられ、被害株率は平年と比べ高かった。病害の発生はみられなかった。

長野市の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、株腐病、黒腐病の発生がみられ、いずれの病害も発病株率は平年と比べやや高かった。虫害では、チョウ目害虫の被害がみられ、被害株率は平年と比べ高かった。

5 ブロッコリー

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。病害では、べと病の発生がみられたが、わずかであった。虫害では、チョウ目害虫の被害がみられ、被害株率は平年と比べやや高かった。

御代田町の巡回ほ場は、出蕾期であった。ウワバ類等チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は平年並であった。病害の発生はみられなかった。

6 はくさい

上田市の巡回ほ場は、結球期であった。チョウ目害虫の被害株がみられたが、被害株率は平年並であった。病害の発生はみられなかった。

小諸市の巡回ほ場は、収穫期であった。チョウ目害虫の被害がみられ、被害株率は平年と比べやや高かった。病害の発生はみられなかった。

小海町の巡回ほ場は、結球期であった。チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は平年並であった。病害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、結球期であった。チョウ目害虫の被害がみられたが、被害株率は平年と比べやや低かった。病害の発生はみられなかった。

7 レタス

上田市の巡回ほ場は、作付が終了していた。

小諸市の巡回ほ場は、結球期であった。斑点細菌病の発生がみられ、発病株率は平年と比べ高かった。虫害の発生はみられなかった。

南牧村の巡回ほ場は、収穫期であった。斑点細菌病の発生が多く、調査株の全株に発生がみられた(図2)。また、すそ枯病の発生もみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。虫害の発生はみられなかった。

御代田町の巡回ほ場は、結球期であった。斑点細菌病の発生がみられ、発病株率は平年と比べやや高かった。虫害の発生はみられなかった。



図2 レタス斑点細菌病(南牧村)

8 アスパラガス

小諸市の巡回ほ場(露地栽培)は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べかなり高かった。斑点病の発生もみられたが、わずかであった。虫害では、アザミウマ類の寄生が多く、寄生株率は平年と比べ高かった。また、ハダニ類の寄生もみられたが、わずかであった。

小布施町の巡回ほ場(雨よけ栽培)は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べ高かった。虫害では、ハダニ類の寄生が多く、調査株の全株に寄生がみられた。

飯山市の巡回ほ場(露地栽培)は、立茎繁茂期であった。病害では、茎枯病の発生がみられ、発病株率は同時期の平年値と比べ高かった。斑点病の発生もみられたが、発病株率は平年と比べ低かった。虫害では、アザミウマ類の寄生がみられたが、わずかであった。

9 ながいも

長野市のながいもは、生育期であった。アブラムシ類の寄生はみられなかった。

10 きく

佐久穂町の巡回ほ場は、収穫が終了していた。

【中南信】 巡回日 10月6日、7日、8日、9日

1 トマト

南箕輪村の巡回ほ場(施設・抑制栽培)は、収穫中であった。茎葉にオンシツコナジラミ成幼虫(少発生)の寄生がみられた。病害の発生はみられなかった。

2 きゅうり

高森町の巡回ほ場(施設・半促成栽培)は、収穫が終了していた。

松本市の巡回ほ場(施設・抑制栽培)は、収穫中であった。葉および花にアザミウマ類およびワタヘリクロノメイガ(中発生、少発生)の寄生がみられた。病害では、葉にうどんこ病(少発生)の発生がみられた。

3 キャベツ

塩尻市の巡回ほ場は、結球期であった。病虫害の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、結球期であった(前回から場所移動)。結球部および外葉にシロイチモジヨトウ(少発生)の寄生がみられた(図3)。病害では、軟腐病(少発生)による株の枯死がみられた。

茅野市の巡回ほ場は、結球期であった(前回から場所移動)。チョウ目害虫による被害(少発生)がみられたほか、軟腐病(少発生)による株の枯死がみられた。

4 はくさい

木祖村の巡回ほ場は、結球期であった。病虫害の発生はみられなかった。

朝日村の巡回ほ場は、結球期であった(前回から場所移動)。虫害はみられなかったが、軟腐病(少発生)による株の枯死がわずかにみられた。



図3 キャベツのシロイチモジヨトウ幼虫(朝日村)

5 レタス

塩尻市の巡回ほ場は、生育期であった（前回から場所移動、7～8葉期）。虫害はみられなかったが、外葉に斑点細菌病（少発生）の発生がみられた。

朝日村の巡回ほ場は、収穫期であった。虫害はみられなかったが、軟腐病（少発生）による株の枯死がみられた（図4）。

6 アスパラガス

豊丘村（雨除け栽培）の巡回ほ場は、茎葉繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類、アブラムシ類およびハダニ類（少発生、少発生、多発生）の寄生がみられ、特にハダニ類は前回調査時と同様に激発状態であった。病害では、茎枯病（少発生）の発生がみられた。

飯島町（雨除け栽培）の巡回ほ場は、立茎繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類およびハダニ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（中発生）の発生がみられた。

池田町（露地栽培）の巡回ほ場は、茎葉繁茂期であった。払落しによりアザミウマ類、アブラムシ類およびハダニ類（いずれも少発生）の寄生がみられた。病害では、茎枯病（多発生）の発生がみられ、前回調査時と同様に激発状態であった。

7 ねぎ

南箕輪村の巡回ほ場は、本葉9.5～10葉であった。虫害では、アザミウマ類およびネギハモグリバエ（いずれも多発生）の寄生がみられたほか、ネギコガ（少発生）およびチョウ目害虫（ヨトウ類、少発生）による食害もみられた。病害では、黒斑病（多発生）の発生がみられ、前回調査時と同様に激発状態であった。

山形村の巡回ほ場は、本葉9.5～10葉であった。南箕輪村同様、アザミウマ類、ネギハモグリバエ（いずれも多発生）およびネギコガ（少発生）の寄生がみられた。病害では、黒斑病（多発生）の発生がみられ、こちらも前回調査時と同様に激発状態であった。

8 ながいも

山形村の巡回ほ場は、生育期であった。アブラムシ類の発生はみられなかった。



図4 レタス軟腐病（朝日村）